「みどりの食料システム戦略」の取組

(これからは、環境にやさしい農業と地産地消が大切!)

地球温暖化は社会的な問題 ←温室効果ガス(CO2,CH4等)が要因

日本の平均気温は、**100年あたり1.40℃の割合で上昇**。

2024年の年平均気温は、統計を開始した1898年(明治31年)以降、最も高い。

集中豪雨の発生回数も、増加傾向。





作物の収量減少・ 品質低下 漁獲量の減少

台風10号(2024年)

CO₂

穀物の大宗は海外からの輸入

消費量約3,300万 t のうち、約2,300万 t を輸入。

小麦の輸入量 502万t/年

大豆の輸入量 316万t/年

とうもろこしの輸入量 1,487万 t/年

パン、麺

豆腐、みそ、しょう油

家畜のエサ





CO₂



※紛争等の影響による海外からの食料調達の懸念。

化学肥料・農薬の原料も海外からの輸入

化学肥料の主原料のほぼ全量を輸入。

窒素 (N) の輸入量 202千t/年 りん安 (N·P) の輸入量 357千t/年 塩化加里(K)の輸入量 192千t/年

国内で 化学肥料等を生産



※紛争等の影響による海外からの原料調達の懸念。

地球温暖化等の課題を解決するため、 「みどりの食料システム戦略」を策定!

農林水産業のCOっゼロエミッション化の実現 化学農薬の使用量(リスク換算)を50%低減 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減 耕地面積に占める**有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大**

ゼロエミッション 革新的技術•生產体 取 を順次開発 組 開発されつつある 技術の社会実装 技 2030年 2040年 2050年

農林水産省 九州農政局

温室効果ガスを減らす取組

農林水産業を通じて排出される温室効果ガスを減らすために、新しい技術や品種の開発などが行われています。

堆肥等の地域資源を活用した肥料 (JA鹿児島県経済連)



ミドリッチ茶1号、ミドリッチ茶2号、アグリッチ888

堆肥を使うことで化学肥料の使用量が減り、 温室効果ガスを減らすことができます。

田植機やトラクター、無人ヘリを活用した可変施肥







ドローンや衛星によるセンシング等により得られたデータを活用し、土壌や生育状況に応じて適切に肥料を散布。これにより化学肥料の使用量が減り、温室効果ガスを減らすことができます。

環境にやさしい農業の推進

日本では、環境にやさしい農業を実現するため、有機栽培、IPM栽培、特別栽培など、環境に負担をかけない農業の取組がすすめられています。

【有機農産物】

農薬や化学肥料等に極力頼らず、 自然界の力で生産



【IPM栽培】

農薬の代わりに、テントウムシなどを使って、 害虫を退治





環境負荷低減の取組の 「見える化」





゛オーガニックビレッジ"に取り組んで いる鹿児島県の自治体

- ・湧水町 ・姶良市 ・南さつま市
- ·南種子町 ·徳之島町

みどりの食料システムの実現

(未来の子ども達のために)



農産物の安定生産・供給



飛んできたコウノトリやサギ (石川県内)



農政に関する情報はこちらから



鹿児島県拠点 「Facebook」



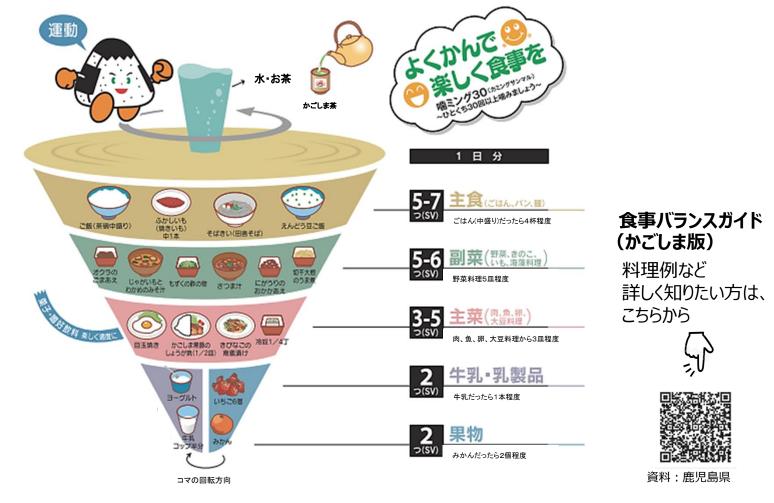
鹿児島県拠点X (エックス)



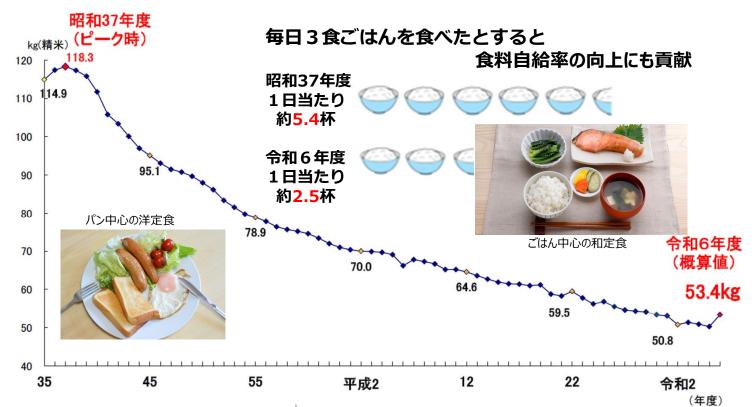
Instagram

お問合せ先

九州農政局鹿児島県拠点 電話番号:099-222-5840 主食、副菜、主菜、牛乳・乳製品、果物の5つのグループ まんべんなく、コマの形になるように(上の方にあるグルー プほどしっかり)食べると、食事バランスはOK!



1人当たりの米の消費量は、ピーク時の半分以下! 米を中心とした日本型食生活も必要!



鹿児島県内で作られたものを食べると、地産地消!例えば、学校給食・・・ 今日のメニューの食材は、

何だろう? どこで作られているんだろう? どんな栽培方法なんだろう?



地産地消・・・消費者も安心して食料を調達。 農業者も売り先がはっきりして、安心!

